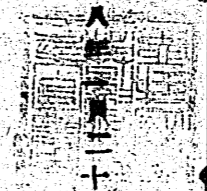
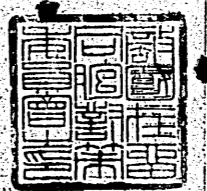


大政翼賛会  
其の同業信託  
ニ依テ定メ  
其の委員  
ニ選任スル  
事  
A7.C.O. 9-11-1-3

第十三號  
昭和十八年十一月二十八日



敵國在留同胞對策委員會  
議長 有田 八郎  
事務總長 丸山 鶴吉



外務大臣 谷 正之閣下

敵國在留同胞激勵大會ニ關スル件  
別紙計畫ノ通り敵國在留同胞激勵大會開催致度候ニ就テハ其ノ目的ノ有ル處ヲ  
御汲取ノ上貴閣御挨拶ノ名義使用ノ件御許可被下度此段相願候

敵國在留同胞對策委員會  
東京市麹町區内幸町二ノ一  
大阪ビルヂング一號館七二六  
電話銀座五〇八二一八九番

一、主催

帝國在留同胞救濟運動委員會

帝國在留同胞救濟委員會

參加團體

海外移住組合聯合會、海外協會中央會、海外同胞中央會、英領地元會、國際文化振興會、歐洲協會、太平洋應用協會、天運救難、東京基督教青年會、南洋協會、日加協會、日福協會、日本拓殖協會、日本ビルマ協會、日伯中央會、日伯經濟協會、日墨協會、比律賓協會、本派本願寺、貿易統制會、馬來協會、ラテンアメリカ中央會、在日二世聯合會

A70.0.9-11-1-3

但シ場所ニヨリテハ大政振興會其他ト共同主催スルコトアリ。

二、趣旨

大東亞戰爭勃發以來、我國米英並ニ之ニ追隨スル諸國ニ在留スル七十萬ノ海外同胞ハ、或ハ抑留サレテ暴虐ナル取扱ヲ受ケ、或ハ強制移住サレテ荒蕪地ノ開墾ニ從事サセラレ、或ハ全財産ハ殆ド沒收ニ等シキ處分ヲ受クル等、多年粒々辛苦ノ結晶ハ水泡ニ轉セントスル危儀ニ在リ。而シテ之等海外同胞ハ、我民族海外發展ノ先鋒者トシテ、身ヲ以テ八紘爲宇ノ理想ヲ實現セシメ、ルノミナラズ、累計六十餘萬圓ノ送金ヲ以テ財政的ニ祖國ニ貢獻セル莫大ナル功績アリ。又滿洲、支那兩華變ニ際シテハ、數百萬圓ヲ獻金、數百萬圓ノ救濟費ヲ獻納シ、更ニ關東大震災、皖西風水害等祖國ノ災害ヲ救クヤ、速早ク救恤金ノ送附等アリ。祖國ヲ思フ情ノ切々タル、又事實祖國ニ貢獻スル義務メテ大ナルニ切シテハ、感激ニ堪ヘザルトコロナリ。

コレヲ七十万ノ同胞ハ今次大東亞戦争ノ勃發ニ因リ前途ノ如キ困難ニ直面シツ、モ猶日本精神ヲ堅持シテ祖國ノ完勝ヲ祈念シツ、アリ。ソノ心事ト從來ノ功勞トニ對シテハ國家トシテ又國民トシテ深ク同情シ之ヲ慰問激勵スルト共ニ救援ノ手ヲ差伸ブベキナリ。茲ニ薩ミルトコロアリ海外關係二十四、團體及學識識者ハ舊曆二十四日敵國在留同胞對策委員會ヲ結成シ流ク國民ノ同情ヲ結集シテ之ヲ遊説ノ敵國在留同胞ニ傳達スベク各級ノ專業ヲ計畫中ナリ。

先ツ一般國民ノ同情ヲ喚起スルため東京ヲ皮切ニ全國各地ニ講演會ヲ開催シ慰問激勵ノ運動ヲ展開セントス。

而シテ本運動ノ目的トスルトコロハ

一、敵國在留同胞ニ對スル一般國民ノ同情ヲ喚起シ

二、講演會其他運動ノ積極ハラズテ海外放送ヲ遠ジテ敵國在留同胞ニ傳ヘ之ヲ慰問激勵シ遊説ニ耐ユル勇氣ヲ喚起セシメ

三、敵國在留同胞ガ身ニ受ケツ、アル敵國米英ノ暴虐ヲ暴露スルコトニヨリ一般國民ノ敵愾心ヲ昂揚スルニ在リ

方法 先ツ二月九日夜ノ東京大會（神田共立講堂）ヲ皮切ニ關西大會（大阪、神戸）之ニ次ギ、海外同胞ヲ多ク出セル各府縣ニ於テ順次講演會ヲ開催シ慰問激勵ニ資セントス。

東京大會ノ講演ハ

安藤紀三郎、奥村喜和男、野村吉三郎、永井柳太郎  
ノ諸氏並ニ敵國ニ於テ抑留ノ体験ヲ有セル交換引揚同胞ニ依  
頼スルコト、對策委員會ヨリハ有田議長、丸山事務總長其  
他幹部出請スルモノトス。

關西大會其ノ他ノ地方大會ニハ外務省、情報局、大政翼賛會、  
各府縣當局及有力者及交換引揚同胞有志ニ出請ヲ依頼スルモ  
ノトス。

本選並ニ國民ノ同情ニ基リ慰問金其他ノ使途ハ外務省及  
日本赤十字社ト協議シ最モ有效ナル方法ヲ追テ發表スルモノ  
トス。

第一回在敵國被拘留歸朝者懇談會次第

第一部 挨拶交換會 午前十時

一 國民儀禮

一 國歌奉唱

一 大政翼贊會挨拶 事務總長

一 敵國在留同胞對策委員會挨拶 議長

一 歸朝者代表挨拶

一 海行がけ齊唱

一 聖壽萬歲

休息 (晝食)

第二部 懇談會 午後十二時卅分

一 座長挨拶 興亞局長

一 懇談

一 閉會挨拶 總務局長

昭和十八年二月八日

大政翼贊會  
於大會議室

君が代

林廣守作曲

さみかよはちよに  
 やちよにさざれいしのいはほど  
 なりてこけのむすまいで

海ゆきは

信時潔作曲

力強く ♩ 72-80

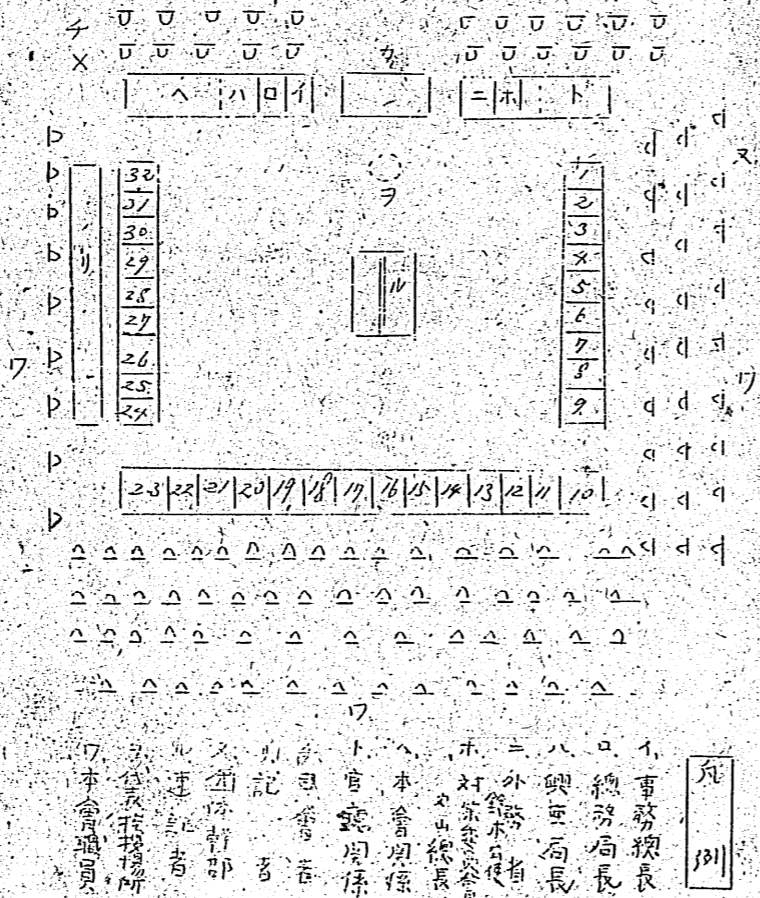
うみゆきはみくまは  
 わましゆきはくまは  
 ねおほきみのへにこそしな  
 めかへりみはせじ

REEL No. A-1092



席之図

旗 (奉) 日



S 1.7.0.0-30

出席者名簿

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
南朋	同盟		日銀	台銀	正金	水谷	河野	大倉	貿易	故送	油脂	農林	商工	大藏
安村 重正	文野 茂男	家田 耕三	山本 正男	井上 氏男	西 一雄	水谷 涉三	河野 健三	大倉 自實	貿易 百策	故送 平岡	油脂 福原	農林 末次	商工 最上	大藏 西山
26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12
郵船 山田朝彦	大倉 太谷幸夫	南運 天野 勇	朝日 三宮 順	永盛 永福 虎	安日 工藤 信一	垣越 加地 幸一	印度南洋	海興 中野 最	商船 佐藤 健夫	東農 水上 不二夫	眼通 田村 重利	青田丸	青田丸	青田丸
33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19
台銀	農林	教育	商業	台銀	伊藤	同盟	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤
山口 無名	仙波 喬	清田 亮之助	西山 英清	森 秋生	伊藤 進	伊藤 進	伊藤 進	伊藤 進	伊藤 進	伊藤 進	伊藤 進	伊藤 進	伊藤 進	伊藤 進

第一回折留者交換婦朝者懇談會名簿

於大阪開會

S 1.7.0.0-30

昭和十九年二月二十八日提出  
建議第一號

海外同胞援護資金制度設置ニ關スル建議案  
右成規ニ據リ提出候也

昭和十九年二月二十八日

提出者

- |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| 前田米藏  | 井野碩哉  | 太田正孝  | 勝正憲   |
| 勝田永吉  | 金光庸夫  | 清瀬一郎  | 近藤英次郎 |
| 櫻井兵五郎 | 四王天延孝 | 眞藤慎太郎 | 田邊七六  |
| 津雲國利  | 東郷實   | 永井柳太郎 | 橋本欣五郎 |
| 松野鶴平  | 松村謙三  | 三好英之  | 八角三郎  |

1

S-17.0.0-30

113

REEL No. A-1092





安藤 覺	青木 精一	綾部 健太郎	伊豆 富人
今尾 登	今牧 嘉雄	上田 孝吉	植松 練磨
小高長三郎	越智 太兵衛	勝又 春一	川島 正次郎
喜多壯一郎	清 寛	窪井 義道	小泉 純也
河野 密	佐藤 洋之助	作田 高太郎	澤田 利吉
田嶋 榮次郎	田中 武雄	田村 秀吉	高橋 守平
武知 勇記	津崎 尚武	鶴見 祐輔	東條 貞
豊田 收	中井 一夫	中瀬 拙夫	中西 敏憲
長野 高一	楢橋 渡	西方 利馬	馬場 元治
肥田 琢司	一松 定吉	堀内 一雄	眞鍋 儀十
松田 正一	松村 光三	宮澤 裕	森下 國雄
山口 喜久二郎	山本 象吉	依光 好秋	小泉 又次郎
松田 竹千代	横川 重次	前田 房之助	三浦 一雄
船田 中	松本 忠雄	中島 彌團次	木村 正義
一宮 房治郎	濱野 徹太郎	池田 秀雄	加藤 鏡五郎
岸田 正記	三善 信房	牧野 良三	小山 倉之助
阿子 島俊治	石坂 繁	稻葉 圭亮	神尾 茂
菅野 和太郎	木下 義介	酒井 利雄	阪本 勝
田中 貢	頼母 木眞六	中原 謹司	中村 三之丞
中村 庸一郎	成島 勇	南條 徳男	西川 貞一
濱地 文平	藤本 捨助	村松 久義	森田 重次郎
吉植 庄亮			

S 1.7.0.0-30

113-2

S 1.7.0.0-30

113-1



賛成者

安孫子孝次	安倍寛	安藤孝三	安藤正純
逢澤寛	青山憲三	赤城宗徳	赤間徳壽
赤松寅七	秋田清	芦田均	荒川真郷
新井堯爾	井阪豊光	五十嵐吉藏	伊藤清
伊藤五郎	伊藤東一郎	伊藤三樹三	伊吹元五郎
伊禮肇	猪野毛利榮	飯塚茂	池崎忠孝
池田正之輔	池本甚四郎	石博敬一	石坂養平
石田善佐	出井兵吉	泉國三郎	今井新造
今井健彦	今井嘉幸	今成留之助	岩瀬亮
宇田耕一	卯尾田毅太郎	植村武一	牛塚虎太郎

内池久五郎	馬岡次郎	江口繁	小笠原三九郎
小笠原八十美	小澤治	小田彦太郎	小野義一
小野秀一	小野祐之	小野寺有一	大麻唯男
大石齊治	大石大	大川光三	大口喜六
大倉三郎	大島高精	大島寅吉	大野一造
大橋清太郎	大村直	岡田啓治郎	岡本馬太郎
岡本傳之助	沖藏	奥久登	奥野小四郎
長内健榮	加藤弘造	加藤七郎	加藤宗平
加藤知正	柏原幸一	片山一男	金井正夫
金子定一	金子彦太郎	金光邦三	唐橋重政
川上胤三	川上法勵	川口壽	川崎克

佐久間 渡	佐々井一晃	佐藤芳男	齋藤憲三
齋藤隆夫	齊藤正身	坂口平兵衛	坂下仙一郎
坂本一角	坂本宗太郎	櫻内幸雄	笹川良一
薩摩雄次	信太儀右衛門	篠原陸朗	島田俊雄
清水留三郎	下出義雄	庄司一郎	白川久雄
菅又 薫	杉山元治郎	鈴木重次	鈴木正吾
鈴木忠吉	角猪之助	曾木重貴	添田敬一郎
宗前 清	田子一民	田下政治	田中伊三次
田中勝之助	田中源	田中好	田中藤作
田中亮一	田中和一郎	田邊徳五郎	田部朋之
田万清臣	田村 稔	多田滿長	高岡大輔

6 1.7.0.0-30

川崎末五郎	川崎巳之太郎	川副隆	川俣清音
河上丈太郎	河上哲太	河盛安之介	漢那憲和
木崎爲之	木下郁	木下信	木原七郎
木村武雄	木村寅太郎	紀藤常亮	菊地養之輔
岸井壽郎	北勝太郎	北吟吉	北村又左衛門
九鬼紋七	久山知之	楠美省吾	藏原敏捷
黒澤西蔵	黒田巖	毛山森太郎	小浦總平
小坂武雄	小篠雄二郎	小平權一	小林絹治
小林鐵太郎	小松茂藤治	小柳牧衛	小山邦太郎
小山松壽	小山谷藏	小山亮	木暮武大夫
河野一郎	紅露昭	駒井重次	佐久間道夫

6 1.7.0.0-30

高木義人	高城憲夫	高田耘平	高野孫左衛門
高橋壽太郎	高畠龜太郎	高見之通	瀧澤七郎
竹内俊吉	谷原公	圖師兼貳	土屋源市
土屋寛	堤康次郎	恒松於菟二	鶴惣市
手代木隆吉	寺田市正	遠山暉男	富田愛次郎
中助松	中井亮作	中井川浩	中川寛治
中川重春	中越義幸	中崎俊秀	中島知久平
中谷武世	中埜半左衛門	中村梅吉	仲井間宗一
仲西三良	永田良吉	永野護	永山忠則
長井源	長沼權一	南雲正朔	南郷武夫
西尾末廣	西村茂生	野口喜一	野田武夫
野田正昇	野村嘉久馬	野本吉兵衛	信正義雄
羽田武嗣郎	箸本太吉	花村四郎	濱野清吾
林信雄	林正男	林佳介	原惣兵衛
原玉重	原夫次郎	原口純允	坂東幸太郎
日下田武	樋口善右衛門	平野力三	廣野規矩太郎
深澤吉平	深澤豊太郎	深水吉毅	福井甚三
福田重清	藤井伊右衛門	藤生安太郎	二田是儀
船渡佐輔	古河和一郎	古田喜三太	別所喜一郎
星一	星島三郎	星野靖之助	本多市郎
本多鋼治	本領信治郎	眞崎勝次	前川正一
前田善治	牧原源一郎	正木清	増田義一

S 1.7.0.0-30

119

S 1.7.0.0-30

118



町田忠治	松浦伊平	松浦周太郎	松尾三藏
松岡俊三	松方幸次郎	松永壽雄	松延彌三郎
松原五百藏	松本治一郎	松山常次郎	三浦虎雄
三木武夫	三木武吉	三木與吉郎	三宅正一
水谷長三郎	南鐵太郎	宮崎一	村上國吉
村澤義三郎	村瀬武男	紫安新九郎	最上政三
桃原茂太	守屋榮夫	森肇	森川仙太
森口淳三	森田正義	森谷新一	森部隆輔
八木宗十郎	八木元八	八並武治	矢野庄太郎
矢部藤七	安田桑次	柳川宗左衛門	山口左右平
山口忠五郎	山口馬城次	山崎達之輔	山崎常吉

山田順策	山田竹治	山田六郎	山中義貞
山野平一	山本厚三	山本芳治	由谷義治
吉川亮夫	吉川吉郎兵衛	吉川大介	吉田敬太郎
吉田賢一	吉田正	吉田貞次郎	米田吉盛
蠟山政道	渡邊健	渡邊善十郎	渡邊泰邦
岡田忠彦	内ヶ崎作三郎		



海外同胞援護資金制度設置ニ關スル建議

御稜威ノ下皇軍ノ赫々タル大戦果ニ應ヘ雄渾ナル構想ニ依ル大東亞ノ建設ヲ推進シ十億民  
族ノ強靱ナル結束ト無盡藏ナル資源ノ開發ヲ促進シ以テ戦力ノ飛躍的増強ヲ期スルハ現下ノ  
急迫セル戦局ニ鑑ミ絶對不可缺ノ要件ナルト共ニ曩ニ大東亞會議ニ於テ宣明セラレタル五大  
原則ヲ實現シテ大東亞悠久ノ興隆ヲ期スルハ當ニ皇國ニ課セラレタル一大使命ナリト謂フベ  
シ即チ大東亞ノ建設ハ我が肇國ノ精神タル八紘爲宇ノ大理想ヲ顯現シ世界新秩序ヲ確立スベ  
キニ大聖業ナルヲ以テ今ヤ大東亞建設戰士トシテ挺身海外ニ活躍スル我が同胞ノ責務ハ愈  
其ノ重大性ヲ加フルニ至レリ茲ニ於テカ我が海外同胞ハ須ク從來ノ自由主義經濟時代ニ於ケ  
ルガ如キ利己的行動ヲ放擲シ儼然タル國家の大方策ノ下減私奉公ニ身一家ノ榮達ヲ顧ミズ堅  
忍持久凡ユル困苦缺乏ヲ克服シ志意専心建設ノ聖業ニ眞摯敢闘セザルベカラズ然ルニ海外同  
胞敢闘ノ地タルヤ多クハ僻遠不毛利ニ家庭上衛生上子弟教育上其ノ他各般ノ施設完カラズ殊

一四  
ニ苛烈ナル戦局ノ現段階ニアリテハ航海中又ハ建設中不幸殉職スル者逐次其ノ多キヲ加ヘ之  
ガ爲生活ニ困窮スル遺家族ノ數亦尠カラザル實情ニアリ此ノ際海外同胞ヲシテ後顧ノ憂ナカ  
ラシメ以テ其ノ業務ニ挺身セシムルハ刻下ノ急務ナリト謂フベシ既ニ出征軍人ニハ軍人援護  
會アリ應徵戰士ニハ徵用援護會アリ海員ニ對シテモ亦日本海員救済援護會アルニ拘ラズ挺身  
以テ皇道ノ發揚ニ活躍スル海外同胞ニ對シテ未ダ之ニ比肩スベキ何等ノ施設ナキハ國民ノ齊  
シク遺憾トスル所ナリ仍テ政府ハ速ニ海外同胞援護ノ方途ヲ確立シ以テ刻下ノ要求ニ即應セ  
ラレムコトヲ望ム

右建議ス

6 1.7.0.0-30

123

海外同胞援護資金制度設置ニ關スル建議案理由書  
本案提出ノ理由ハ本文ニ明ナルヲ以テ茲ニ之ヲ贅セズ

6 1.7.0.0-30

124